

銅・フルジオキシニル・ペフラゾエート水和剤 モミガードC 水和剤	取扱メーカー： 北興 原体メーカー： —, シンジェンタ, エス・ディー・エス
成分： 塩基性塩化銅〔銅〕……………7.6% (銅として……………4.5%) フルジオキシニル〔フェニルピロール系〕……………2.0% ペフラゾエート〔エルゴステロール生合成阻害剤〕…12.0%	性状： 淡灰色水和性粉末45μm以下 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

●フルジオキシニルと、種子消毒剤として定評のあるペフラゾエートと、細菌性病害に安定した効果を示す塩基性塩化銅を配剤した、総合種子消毒剤である。

●3種の有効成分の相加的効果で安定した防除効果を発揮。糸状菌による病害から細菌性病害までの確に同時防除できる。

●作用性の全く異なる成分を配合することにより、各種病原菌の薬剤感受性の低下を未然に回避できる可能性がある。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

●種子消毒は浸種前に行い、消毒後は水洗いせずに浸種する。

●調製した薬液は、調製当日に使用する。

●薬液の温度は極端な低温をさける。

●浸漬処理の場合は、もみと処理薬液の容量比は1：1以上とし、種もみはサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆする。

●吹き付け処理の場合は種子消毒機を使用し、種もみに均一に付着させて乾燥する。また、塗沫処理の場合は、適当な容器内で種もみを攪拌しながら、薬液を滴下するなどして、種もみに均一に付着させる。

●粉衣処理の場合は、湿粉衣とし、所定量が均一に付着するように容器内で少量ずつ粉衣する。

●ハトムネ催芽器やエアレーション付きの水槽で浸種する場合、ハトムネ催芽器ではシャワー循環をやめ水循環のみとする。エアレーション付き水槽ではエアレーションを弱めに調整し時間を短くする。

【薬効・薬害等の注意】……………

●処理を行った種もみを浸種する場合は、次の注意事項を守る。

○浴比は1：2とし停滞水中で浸種する。

○水の交換は原則として行わない。但し、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがある時は、初めの2日間は行わないで、その後静かに換水する。

○河川、湖沼、ため池などで浸種しない。

●使用により軽度の初期生育遅延を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。

【安全対策上の注意】……………

●処理した種もみは食用や飼料に用いない。

●藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及び容器の洗浄水等は適切に処理する。



【適用と使用法】

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数	フルジオキシニルを含む農薬の総使用回数	ペフラゾートを含む農薬の総使用回数
稲	ばか・苗病 ごま葉枯病 いもち病 もみ枯細菌病 褐条病	200 倍	浸種前	1 回	24時間 種子浸漬	—	1 回	1 回
	苗立枯細菌病 苗立枯病 (トリコデルマ菌)	7.5 倍 (使用量は乾燥 種もみ 1 kg 当 り希釈液 30 ml)			吹き付け処理 (種子消毒機 使用) 又は 塗沫処理			
	苗立枯病 (リゾープス菌) 苗立枯病 (フザリウム菌)	乾燥種もみ 重量の 0.5%			種子粉衣 (湿粉衣)			